

# ミレニアルZ スタイル

結婚式を挙げる人が多い秋。披露宴や結納を簡略化する人が多くなる中で、指輪に対する価値観も変わってきている。婚約指輪の代わりには日常使いできるものを贈ったり、おそろいのデザインではなく各自の好みで選んだりするカップルも目立つ。単にコスパなどの合理性だけでなく、お互い

## ライフスタイル

### 結婚指輪、価値観は型にはまらず



30歳の女性は結婚相手と2人でそれぞれの希望の結婚指輪をオーダーメイドした

## 箱だけ演出や割り勘で購入も

のこだわりを尊重する意識。2022年4月～23年3月の表れにもなっている。に挙式や披露宴、ウエディンクパーティーのいずれか降最低となった。両家の顔合わせのみを実施した人は、調査2023によると、

17人のうち、結納を実施しなかった。とはいえ、何か記念になるものは欲しいという女性の思いを尊重し、2人の結婚指輪代は彼女が持った。

85.1%で大多数を占めた。ロポーズ気分を演出した。

結婚にまつわるイベント。ちゃんと後から「指輪以外で欲しい物を贈るね」と言われたい。結婚指輪など料金の支払いは少なくない。29歳女性は、今春、交際相手からプロポーズされ、指輪の箱を渡された。箱を開けると中は空だった。婚約指輪は「お返しに何が欲しいか」と常々伝えていたからだ。

普段から指輪が好きで複数つけており、1つで主役になるような婚約指輪はない。指輪を気に入らないうちにとんどんこもいるぞうだ。

合理的だけでなく、お互いに尊重し大切に思う気持ちや、型にはまらない指輪を選びにも表れている。

「お返しに何が欲しいか」と聞かれたが、特に欲しいものを思いつかなかった。一般的なお返しはスーツや時計だが、リモートワーク材の指輪を探した。結局、